

校長室から応援メッセージ(その4)

令和5年9月1日(金)

後期開講にあたって

皆さん、こんにちは。近年稀にみる猛暑がいまだに続いています。一向に衰えを見せない暑さの中で体調管理に気を配らなければならず、受験生の皆さんにとっては本当にたいへんな夏だと思えます。さて、何はともあれ9月に入りました。後期の開講にあたり、ごあいさつ申し上げます。

数日後、山日新聞の「やまなしインタビュー」という紙面に山梨予備校と、これは私も見たくない私の写真が載る予定です。インタビューは皆さんへのメッセージになるように答え、その最後には「受験勉強は人生の本番」とつぶやきました。私はこのつぶやきが編集段階でカットされないことを願っています。

受験勉強は人生の準備などではなく、本番であると考えています。受験勉強の先に不安を感じるなら、それは「おい、大丈夫か」と心配して自分を見ているもう一人の自分の存在を許していることになります。人生の本番ならば、それを生きるのは一人の自分。机に向かう自分が世界の全てです。

人生の本番、皆さんのその舞台は山梨予備校です。山梨予備校で勉強する生活を最後まで貫いてください。授業の内容は参考書に全部書いてある、そうであるなら予備校より自分でやった方が効率がよいかも、予備校に行く通学時間ももったいないし・・・、そういう気持ちは封じてください。

確かに独力でも可能なのでしょう。しかしどっちが得で確実かということです。予備校には仲間がいます。一定ペースの勉強に強制的に巻き込まれます。夏が終わって秋になり、冬になり、焦りの気持ちが出ても、そんな時も仲間と一緒に、予備校ペースで。これが予備校に通うことのメリットです。

予備校でテキストと模試の問題を何回もやり直してください。入学試験はあっという間に終わり、その時、あんなに努力したこれまでの勉強が役に立ったのかしら、という思いに捉われるのですが、それは、試験中は自分の身についた知識を無意識のうちに使っているので抵抗感がないからです。

いつの間にか使ってしまったのが本当の知識です。自分との間にまだ隙間があってよそよそしい知識は、いざという時使えません。試験で頼れるのは何度も繰り返し、身に馴染んだ知識、体に張り付いていて、サッと取り出せる知識だけです。体に知識がピッタリ張り付いている、手にも足にも、胸にも背中にもお尻にもビッシリ張り付いている。その知識が目に見えたら、懸命に勉強した人はどんな姿になるのか、その姿を想像しながら机に向かいましょう。私はかろうじて体に張り付いている知識が、これ以上ポロポロ落ちないように注意いたします。さあ皆さん、新たな気持ちでここから頑張りましょう。